

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791800032		
法人名	有限会社 くばの里		
事業所名	認知症対応型グループホームくばの里ハウス		
所在地	沖縄県国頭郡金武町字金武4196-147		
自己評価作成日	令和6年 9月17日	評価結果市町村受理日	令和6年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=479180032-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和6年 10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人一人の性格や習慣を理解し、その人らしい生活が送れるよう「お手伝い」をさせていただいている。 ・外出や面会などに制限を設けず、マスク着用で家族との時間を過ごせるようにしている。 ・看取り介護を家族も一緒に行ってもらい、最期の時間も大切にしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は海が見える高台の住宅街に立地していて、敷地内には同法人のグループホームが3ヶ所ある。法人の理念「個人の意思を尊重し、住み慣れた地域に愛され、皆が笑顔で楽しい生活を送れるようお手伝いします」を実践するため、利用者一人ひとりのペースを大切に、生活を手伝う気持ちで外出支援や活動を行い、自由に過ごせるように支援している。</p> <p>食事は3食手作りで、専任の調理職員が配置されている。差し入れの野菜や利用者のリクエストを取り入れてメニューを決め、職員も同じ食事を楽しんでいる。介護記録ソフトやビジネス向けのコミュニケーションツールを活用し、利用者の状態を細かく把握するとともに、職員が働きやすい環境づくりにも取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見を取り入れ作ったわかりやすい言葉で、「お手伝いをさせてもらっている。」という意識を持つよう、毎朝の申し送り時に皆で復唱している。	現管理者が職員と一緒に作成した事業所独自の理念で、「個人の意思を尊重し、住み慣れた地域に愛され、皆が笑顔で楽しい生活が送れるようにお手伝いします」の実践に努めている。理念は事業所内に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和している。また、2ヶ月に1回発行している「たより」には毎回介護理念を記載し、利用者や家族、地域住民にも周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近くの保育園で行事や催し物があるときや、近所の方たちに夜間駐車場を提供している。 ・日常的に地域との関わりは出来ていないが、散歩中や病院受診時に地域住民の方や馴染みの方と会話をしたり、近くの保育園や青年会と慰問交流をしている。	毎年旧盆には地元の青年会がエイサーの慰問に事業所を訪れている。感染症の状況を見ながら、季節の行事に合わせて地域の保育園児を事業所に招待している。また、町の福祉まつりへの参加や車いすダンスなどの行事情報を収集し、利用者と一緒に参加できるよう努めている。事業所の駐車場は夜間、地域の方に開放しており、地域の方から野菜などの差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて特別なことは出来ていないが、認知症介護で困っている家族の方が施設見学に来た際、相談にのり、いつでも相談に乗ることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回、奇数月に行い、会議録など家族にも送付している。利用者、地域の方、行政機関、家族の参加をお願いし、多方面から意見をいただいている。家族代表の方が高齢なこともあり、新しく代表の方を選考しているがなかなか見つからない。	同法人の他の2つのグループホームと合同で、2ヶ月に1回開催、今年度は感染症の状況を見ながらほぼ対面開催ができています。議事録はそれぞれのグループホームごとに作成され、委員には議事録を送付し、事業所入口にファイリングして閲覧が可能な状態である。外部評価結果や事故などの報告を行い、委員からはドライブ先の提案や地域行事の情報提供も受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・職員不足から地域会議などに参加できていないが、認定更新手続きや新規入居者の情報交換などのため窓口を訪ねたりしている。 ・包括のケアマネからの緊急時の受け入れ相談など行っている。	行政担当からは運営推進会議の参加時や、必要時には電話等で相談し、情報提供や助言を得ている。5回目のワクチン接種の調整を行政と行っている。町からは感染予防対策としてマスクや消毒液、抗原キットの配布がある。生活保護世帯の利用者に関する福祉事務所との連絡調整が行われている。町からは地域ケア会議の案内が送付されてくる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や勝手口などにセンサーや鈴を取り付け、人の出入りがわかるようにし、外に出たがっている場合、散歩やドライブなどなるべく自由に好きな所に行けるようにしている。	身体拘束等の適正化のための指針とマニュアルが整備され、身体拘束検討委員会を2ヶ月毎に開催している。職員は委員会の議事録の確認と年2回の研修を実施している。身体拘束をしない事業所の方針やリスクについて、入居時に家族等に説明している。事業所内の玄関や居室は施錠せず、玄関が開くと鈴が鳴るように設置し、離設等の安全面に配慮している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・どんな行為が虐待にあたるのか、虐待について職員同士の指摘や話し合いなど、その都度検討している。	高齢者虐待防止についての指針とマニュアルが整備され、委員会を年2回開催している。職員は年2回の研修と、「虐待の芽チェックシート」を活用して、自身や他職員のケアが虐待や不適切なケアになっていないかを見直している。管理者は職員の口調や態度が気になる際には休憩を挟んだり休暇を調整することで、虐待の未然防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し勉強して、家族の行っている成年後見人の手続き書類作成などを手伝っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時や契約時に、本人や家族に説明を行い、署名捺印をもらっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付書と回収箱を置いているが、面会時に直接管理者や職員に言うてもらうことが多い。	利用者からの意見や要望は、日頃のケアや会話を通じて把握するよう努め、事業所での過ごし方や買い物等の要望、食事のメニュー等、その都度柔軟に対応している。家族は運営推進会議に参加し、面会時などにも意見や要望を聞き取るようにしている。看取りケア等の家族の関わり方について要望に寄り添えるように支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員ミーティングを行い、発言する機会がある。それ以外にも普段から職員が発言し易い環境になるよう心掛けている。管理者は必要に応じ管理者・役員会議の議題にあげ皆で検討している。	毎月の職員ミーティングで業務改善や必要物品の購入について話し合っている。ミーティングや研修の参加は業務内で給料が発生するようにし、参加しやすい工夫をしている。今年度は職員からAEDの使用方法に関する研修の要望があり企画している。ビジネス向けコミュニケーションツールを利用し、研修の予定や報告、研修資料や各種マニュアルの閲覧等に活用している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員を増員し、ゆとりあるシフトにしたいが、募集をかけてもなかなか応募が無い。 ・健康診断の実施。 ・職員の出勤日や時間帯、休みや有給などは、皆の意見を聞きながら概ね希望通りになっている。	職員の希望を取り入れてシフト調整を行い、年5回以上の有給休暇の取得もできている。健康診断については全職員に年1回の実施が確認できたが、管理者や事務から職員に促しているものの、夜勤を定期的に行う職員の年2回の健康診断は実施できていない。ハラスメント防止については就業規則に記載し、マニュアルも整備、研修も実施している。	健康診断の実施については、労働安全衛生法によって事業者が義務付けられており、かつ夜勤を定期的(週1回以上)に行なっている介護職員については、年2回の実施が義務付けられているため、夜勤を行う職員の年2回の健康診断の実施が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修にかかる費用は会社が負担してくれる。 ・GH協会に加入し、研修など受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・沖縄県グループホーム協会に加入し、管理者会議や研修へ参加しているが、相互訪問までは至っていない。 ・法人内の施設同士の交流で相談や意見交換、励まし合いなど行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し、ケアマネや相談員からの情報も取り入れながら本人の様子を把握し、事前にホームの見学をしてもらい、施設の雰囲気を感じていただき安心して入居出来るように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の困りごとやサービス利用状況、入居を検討した経緯等についてお話を伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談などでご本人やご家族、ケアマネ等関係者から生活歴や現在の状況など確認している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、調理の下ごしらえや、おやつ作り、季節の行事の飾り作りなどを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・職員と家族の関係づくりのため、面会時などに情報交換を行っている。 ・夕食時の食事介助や排泄介助を家族の方が来所して手伝ってくれる		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族や馴染みの方の面会時、他利用者や職員との交流を持つことで、もっと訪問しやすい環境になるように支援している。 ・本人様の行きたいところ(買い物や自宅など)に行けるよう対応している。	これまでの関係性を継続するため、元職場の友人が月1回程度面会に来たり、利用者の自宅近くをドライブしている。旧盆には自宅に帰る利用者もおり、車いすを使用する場合は事業所のリフト車を貸し出している。また、町内の行事はコミュニケーションアプリを活用して把握し、利用者に情報を提供している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の座席を配慮したり、職員の声掛け等で明るい雰囲気作りに気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所後も、病状経過などを家族に確認したり、困ったことや不安なことがあればいつでも相談に乗ることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団にとらわれず、個人のペースに合わせた支援を心掛けている。	日々の会話や利用者の表情から思いや意向を把握するよう努め、「海が好き」「買い物に行きたい」等の意向に沿って、事業所近隣を散歩し海を見に行ったり、近くのスーパーで一緒に買い物をするなど支援している。「家に帰りたい」という思いには、利用者の自宅周辺をドライブする等、一人ひとりの思いに寄り添った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中から読み取ったり、家族の方から情報収集したりしている。また、利用者様同士も近所だったりするので、教えていただくこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身状態の変化などで本人の有する力などを申し送りなどで情報共有し、支援している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時や、利用者の状態に変化があった時にはその都度話し合いを行っている。申し送りなどで情報を共有し、対策検討を行い介護計画に反映させている。	介護計画は長期目標が概ね1年、短期目標が6ヶ月とし、居室担当の職員が毎月モニタリングを実施している。介護計画には利用者一人ひとりの意向が明記されており、人付き合いが苦手な利用者の「マイペースで過ごしたい」という要望に対し、共用空間で好きな映画などを視聴できるようにサービス内容を記載して実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や介護日誌に記入し、勤務引継ぎ時の申し送りにて情報の共有をはかっている。LINEのグループで情報を共有したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の申し送り時に利用者の状況を報告し、必要な支援を行っている。病院受診や往診、家族との外出の予定など。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にある美容室やスーパーなどは利用しているが、コロナ後からは周りの方たちとの交流が無い。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ほとんどの利用者が在宅時からのかかりつけ医に訪問診療や往診をしていただいているが、本人・家族の希望で病院を変更した際もスムーズにできるよう協力した。 ・受診対応の利用者は、管理者、もしくは職員と一緒に同行し、情報提供や付き添いをする。	入居前からの馴染みの医師が訪問診療へ移行した利用者が多く、円滑な関係で健康管理が継続できている。訪問診療の前後や必要性に応じて、家族に状態を報告し、医療面の意向確認を行っている。通院する利用者は家族や職員が対応し、受診前に書面での情報提供を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人で雇用している看護師が最低でも週に1回、それ以外にも必要に応じ訪問してもらい、相談やを指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行して情報提供している。退院調整も家族や病院と調整し、スムーズに受け入れる体制をとっている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時に、利用者や家族へ重度化した場合の指針、看取りに関する指針など説明し、同意をもらっている。 ・見取り期の症状や今後の経過などをかかりつけ医の先生に来所してもらい家族や職員で情報を共有した。	契約時に家族に重度化や終末期について事業所の方針を説明し、意向を確認している。職員は看取りに関する研修をオンライン受講し、尊厳のある生活を支援できるように学びを深めている。事業所の職員や看護師、かかりつけ医などの関係者が日々の健康状態を共有し、変化に備えて話し合いや連絡体制を整備している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時や事故対応マニュアルなどを整備し、対応時の流れを見やすい場所に掲示している。 ・応急手当等の訓練は行っていないが、看護師の指示のもと動くことはできている。	利用者の急変や事故発生時に適切な対応が出来るように、研修の開催や外出支援時に携帯できる緊急フローチャートを作成している。年度内に心肺蘇生法やAEDの使用について研修を予定している。事故発生時には、申し送り時に早急に対策を立案・実行し、定例ミーティングで評価を行い、決定した内容に基づいて事故の再発防止を図っている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	・年2回の消防避難訓練や金武町や県の防災訓練に参加し、避難訓練を実施しているが、地域との協力体制は築けていない。 ・12月に夜中を想定し、外が暗くなってから電気を全て消し、災害避難訓練を行う予定。 ・暴風域のない台風だったが、訓練も兼ねてBCPIに沿って行動した。	昼夜想定避難訓練を年2回実施し、参加者からの意見をを受けて夜間帯での暗闇行動訓練を予定し、近隣住民の参加協力も思案している。停電に備えてポータブル電源を設置し、自家発電機のレンタルについて調整している。3日分の飲食品を常備し、ローリングストック法を活用している。感染症については、検討委員会を設置し、研修の開催や指針の整備などに努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉や接し方などによって自尊心を傷つけたり、排泄支援の時、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に気を付けている	契約時に個人情報保護方針や事業所の取り組みについて説明し、居室前の氏名の掲示や写真掲載の取り扱いなど確認して同意を得ている。トイレ誘導時は、本人に聞こえる程度の小声でプライバシーに配慮した言葉掛けを行っている。職員は入職時や定期的な研修で個人情報保護法を理解し、秘密保持の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	雑談の中から希望や要望を聞いたりしながら、利用者一人ひとりの思いや希望を尊重し、可能な限り対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にこだわらず、個別支援が出来るように対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや入浴の際の衣類は本人に確認している。外出時は職員が寒暖をアドバイスし、本人の好みに装うよう支援している		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	直接の調理は出来ないが、野菜の下ごしらえを職員と一緒にしたり、利用者と一緒に調理したりしている。最近、庭先に畑を作り、水やりを手伝ってもらい収穫を楽しみにされている。特に決まった献立を作らず、利用者の好みやイベントなどに合わせ調理している。	専属の調理員が3食手作りで提供している。調理員が休日の際は、職員が調理している。献立はリクエストに応じながら、季節が感じられる旬な食材を取り入れている。利用者は地域住民から頂いたパパイアをカットするなど一緒に調理の工程も楽しんでいる。職員は3食ともに同じ食事を食べ、和やかな雰囲気での食事の促進を図っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事や水分量を、その都度摂取量を個人記録に記入し、摂取量が少ない方には捕食や水分補給を行っている。 ・水分補給に拒否の強い方には、本人の好む飲み物を用意し、飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時や毎食後、歯磨きの声かけ、見守りを行い、必要に応じ義歯は利用者本人が洗浄後、職員が洗浄する。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄記録で排泄パターンを確認し、トイレを促すことにより、パットの使用軽減につなげるようにしている。 ・夜間はトイレまで間に合わない方は居室にポータブルトイレを用意し、使用後はすぐに洗い、部屋に匂いが残らないようにしている。	入居後、排泄パターンを把握し、評価・分析を行い、個々の状態に合わせ、布パンツへの変更やトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄が排泄意の維持や心理的な負担軽減に繋がっていることを大切に取り組んでいる。トイレには男性専用の小便器も設置されており、習慣が継続できる環境になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄状況を確認し、水分や食事に対応するようにしている。水分量の少ない方には本人の好む飲み物を用意し、水分補給に拒否なく飲めるようにしている。 ・焼き芋の提供など		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を決めているが、一人一人の希望に合わせて対応している。	基本的に週2~3回シャワー浴で、利用者の意向や生活習慣に合わせ、いつでも柔軟に対応できるように体制を取っている。入浴時は個々の好みに合わせた音楽を流し、リラックスできる雰囲気を作っている。入浴拒否のある方に対して、禁忌用語を変えて声掛けに工夫し、不安解消に努めている。脱衣室は寒暖差が無い様に、冷暖房機が設置されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を特に定めず、テレビを見たり、雑談したり一人一人に応じている。安眠できるように室温なども一部屋一部屋調整している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握しやすいよう薬の近くに服薬情報を綴ったり、薬の変更や追加があった時には記録に書き、申し送りにて報告している。	看護師または管理者が個別に薬を仕分けし、夜勤者が1日分をケースにセッティングしている。服薬後は空袋をケースに戻し、飲み忘れ防止などに努めている。状態に合わせ、家族、担当医へ服薬状況について相談・検討し、減薬に繋がっている事例がある。服薬支援の手順が記載されたマニュアルが確認出来なかった。	服薬マニュアルを作成し、安全な服薬支援の為、手順を職員間で統一し、落薬など再発防止が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地元の小学校の校歌や童謡を歌ったり、軽作業(畑の水やり、洗濯たたみなど)、散歩、ドライブ等で気分転換になるよう支援を行っている。 ・iPadなどを使い個人にあわせた映画観賞や動画視聴などを行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族との外食や行事などで外出する際、リフト車の貸し出しを行っている。 ・買い物や帰宅要求に都度対応し支援している。	日常的な外出は天候に合わせて、事業所の外周を散歩したり、庭先で外気浴を楽しんでいる。個々の意向に合わせて、スーパーへの買い物や帰宅願望のある方へはドライブを行い、気分転換を図っている。今年2月に初詣、3月は浜下りで外出し、季節に合わせたイベントの実施に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自身の持っているお金で施設内の販売機でジュースを購入したり、移動販売のパンを購入している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる人はいないが、いつでもかけたい時に電話をかけたり、ご家族や友人からかかってきた時には、話が出来るように支援している。最近LINEのテレビ電話なども活用している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のイベントに合わせた飾りなどし、湿度計、温度計を置き空調などの調節を行い、採光、テレビの音量調節にも配慮している	奥行きのある食堂兼居間は、天井が高く開放感のある空間になっている。畳間はいつでも寛げる様に3人掛けソファやマッサージチェアがあり、居心地の良い場となっている。玄関先から続く共有空間には、利用者と職員が共同で作成した手作りの小物や絵画などが飾られ、家庭的な雰囲気大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂、玄関などに椅子などを設置し、利用者が思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明し、自宅のように過ごせるようテレビやラジオの持ち込みや、使い慣れたものなどを居室に置き、ゆっくり過ごせるようにしている。	入居時、家族と相談しながら、使い慣れた馴染みのある物を持ち込み、これまでの生活スタイルを継続できるように働きかけている。壁には写真や自作の作品が飾られ、安らぎの空間作りを工夫している。ナースコールを押すのが困難な方に対し、ペットボトルを呼び鈴として活用し、安心して過ごせる様に個々に合わせて取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを配置し、利用者が移動しやすく、立ち上がり運動なども出来るようにしている。トイレや浴室なども車椅子や四点歩行器などでも出入り出来るようにしている。		